

# 緑の風 NEWS

JR東労組



JR東労組ホームページ

East Japan Railway Workers' Union 2024年11月8日 No.56

## 許すな!!

## 【2024年度 年末手当】

# 出さないための理由!?

2024年度年末手当第2回交渉後、多くの職場で会社幹部が訪れ、決算について触れ①計画に届いていない②インバウンドが取り込めていない等と訓示が行われています。JR東労組はこの年末手当を出さないための理由に聞こえるような会社の考えに第2回交渉で立ち向かってきました!



運輸収入は対前年  
501億円の大増だ

### VS

計画より下だ。客観的に  
見る必要はある

インバウンドは  
第2四半期時点で  
過去最高だ!

### VS

計画より下だ。客観的に  
見る必要はある



▼足元の状況

【第2回交渉での主な議論】

インバウンド▼

組合の主な主張	会社の主な回答
足元について「中長距離収入を中心にお客様のご利用が依然として弱い」と回答された。 <b>運輸収入を見ると昨年度から501億円の増となっている。大増として見ないで、何故弱いと評価されるのか。</b>	職場の努力が積み重なり数字に現れているが、定期収入は計画を超えているが、定期外収入の中長距離、特に新幹線は計画を下回っている。当社の大動脈である東北新幹線は伸びが弱い。
運輸収入は対前年で500億円以上、大幅に積み増している。 <b>会社の計画に届いていないことが弱いと評価されると、職場の努力は報われないのではないのか。</b>	社員が日々の安全・安定輸送や、お客様へのサービスの提供をしていることは認識している。しかし、あくまで決算の数値のため、そこに対して <b>客観的に見る必要がある</b> 。対前年は上回っているが、計画に対して下回っているのも事実である。
会社の計画そのものに無理があったのではないのか。	計画は全く到達不可能なものや社員の皆さんへ無理を強いるものではない。

(組合) 昨年から500億円積み増したことを年末手当の判断材料としてみるべきだ

(会社) 考慮する一つの要素にはなる。

組合の主な主張	会社の主な回答
インバウンドについて、第一回交渉で「当社エリアのご利用が取り込めていない。伸び悩んでいる」とはどういう事なのか。	昨年度は385億円を実績として積み上げた。2024年度は430億円の計画を立てている。上期は昨年度の収入の半分に達していない。外国からのお客様が非常に増えているが、当社の利用に取り込めているのかは弱いところがある。
<b>第2四半期決算のインバウンドの実績からすると過去最高だ。</b>	実績はそうだ。
<b>「取り込めていない。伸び悩み」と表現されると職場の努力は報われないと感じる。</b>	様々な職場、様々な系統で取り組んでいただいたことで今回の決算の状況となっている。ただし、 <b>客観的に数字を見る必要はある。</b>

(組合) インバウンドは過去最高の実績である。そのことを年末手当の判断材料としてみるべきだ

(会社) 考慮する一つの要素にはなる。

## 働く者の努力に報いず、客観的に数字だけで判断することは許されない!!

## JR東日本で働く者の声をJR東労組へ集約しよう!